

テーマ：『 私たちの山田川 』

嘉麻市立 下山田小学校

Tel. 0948-52-0309 担当 大木 秀一

者：



■実践内容：

下山田小学校では4年生の「総合的な学習の時間」において、ゲンジボタルやサケの飼育・観察を通して、子どもたちが身近な河川(山田川)への関心をもち、川を汚さない、ゴミを捨てないといった道徳的価値観を育む取り組みを行いました。子どもたちは昔の山田川周辺のホタル飛翔状況を調べ、近年はホタルが減少傾向にあることを知り、「ホタルについて知りたい。」「ホタルを大切にしたい。」といった思いを抱きました。そして、ゲンジボタルを採集し、交尾、産卵、孵化を観察し、産まれたてのゲンジボタル幼虫の小ささに感動し、命の不思議さに出会いました。その後、飼育トレイの水を変えたり、餌を与えたり、幼虫を大きさ別に分けたりして幼虫に触れ合うなど、ゲンジボタルが来年光って飛ぶことを夢見て、お世話活動を行いました。

現時点では、幼虫が10～15mm程度に成長しています。推定で約5,000匹の幼虫が飼育されており、三学期の放流に備えて順調に成長を続けています。

また、子どもたちは学校近くを流れる山田川へ出向き、水質検査を行いました。そこで山田川の水質が良くないことを知り、ホタルが棲める川とはどのような川であるかを考えました。ゲンジボタル以外にも三学期に地域の協力者からサケの卵をいただく予定があり、お世話して孵化した稚魚を山田川に放流する予定です。

■実践成果：

これらの活動を通し、子どもたちに「ゲンジボタルを大切にしたい。」「山田川をきれいにしたい。」という思いを育みました。川の世界を守るには何が大切かを学び、実践につながっています。このような取り組みを12月に地域のNPO法人「遠賀川流域住民の会」主催の発表会で実践発表し、地域の方にも取り組みと想いを伝える予定です。また、2月の学習発表会でも全校児童や保護者へ報告する予定です。学習の成果が学校内のみならず、保護者や地域へ発信され、多くの理解者を生むものと考えます。

活動の成果がすぐには表れず、来年にならないとゲンジボタルが飛ぶ様子を見ることはできませんが、自然を守る活動も同様に、今の取り組みの成果が必ず未来に現れることを信じて、子どもたちは学習を進めることができました。

■実践ポイント：

小さいながらも命をもち精一杯生きるゲンジボタルの幼虫の姿を間近に見て、命の尊さや大切さを感じながら学習することで、子どもたちの自発的な活動につながりました。また、河川の水質調査(バックテスト)を体験することで、身近な川が

汚れていることを実感させることができました。河川に近づく活動が多いので、児童の安全確保(事前指導・監督者増員等)に注意しながら活動を進めました。